

## セットアップガイド [バックアップ編]

本製品はシステムの設定やユーザー情報、アクセス制限設定を保存することができます。  
障害が発生した際に、設定を復元することですばやく復帰させることが可能になります

### 1 システム設定の保存と復元

本製品の設定情報をファイルとしてダウンロードまたはアップロードすることができます。

システム管理メニューの「設定の保存・復元」をクリックします。



#### 1 設定を保存する場合

ダウンロードをクリックして、設定ファイルを保存します。

#### 2 設定を復元する場合

設定ファイルを選択し、アップロードをクリックします。

※バックアップした設定は、同じファームウェアバージョンでのみ復元できます。  
※ユーザー/グループは保存されません。



### 2 ユーザー/グループの保存と復元

本製品に設定されているユーザーとグループをファイルとしてダウンロードまたはアップロードすることができます。

ファイル共有/権限メニューの「ユーザー/グループのバックアップ/復元」をクリックします。



#### 1 ユーザー/グループを保存する場合

ダウンロードをクリックして、ファイルを保存します。

#### 2 ユーザー/グループを復元する場合

ファイルを選択して、アップロードをクリックします。



### 3 アクセス制限設定の保存と復元

共有フォルダーに設定したアクセス制限設定をファイルとしてダウンロードまたはアップロードすることができます。

バックアップメニューの「アクセス制限設定の保存/復元」をクリックします。



#### 1 設定を保存する場合



- ① RAIDボリュームごとにバックアップを行います。保存したいRAID IDを選択してください。
- ② 適用をクリックして、ACLバックアップファイルを保存します。

#### 2 設定を復元する場合



- ① 復元するファイルを選択し、次へを押します。再度にチェックがある場合は、同じアクセス権の全てのサブフォルダに適用されます。



- ② アクセス制限設定を適用するフォルダを選択し、復元をクリックします。

### 4 障害が発生したら

HDDに障害が発生すると、HDDのLEDランプとブザー音でお知らせします。

#### ●LEDランプでのお知らせ

HDD1またはHDD2ランプ	橙色点灯	該当するHDDベイのHDDが故障です。
----------------	------	---------------------

#### ●ブザー音でのお知らせ

HDDの障害	RAID1使用時に、一方のHDDにおいて故障やI/Oエラーが頻発し、交換が必要な状態です。LEDランプで故障したHDDベイを確認し、新しいHDDユニットに交換してください。
RAIDシステムの破損	何らかの理由でRAIDシステムが破損し、復旧不可能な状態です。電源をオフにし、再起動後、RAIDシステムを再構築してください。※再構築の方法は、ユーザーズマニュアルをお読みください。

### 5 HDDユニットを交換する

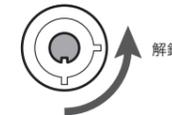
本製品のHDDユニットが故障した場合などのHDDユニットの交換方法を説明します。本製品はホットスワップに対応しますので、本製品の電源を入れたままの状態、HDDユニットを交換することができます。

#### → HDDユニットの故障に備えて…

別売の「HDDユニット (HDD 装着済み)」をあらかじめご購入いただくことをお勧めいたします。  
詳しくはエレコム・ホームページをご覧ください。

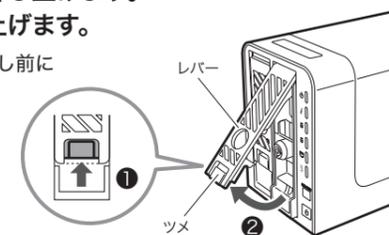
#### HDDユニットの取り出し方法

- 1 付属のキーを使って、セキュリティロックを解除します。



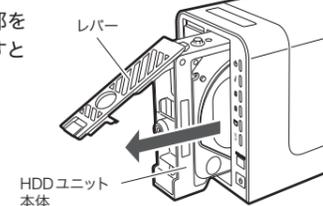
- 2 ① ツメを指先で押し上げます。  
② レバーを引き上げます。

・HDDユニットが少し前にせり出します。

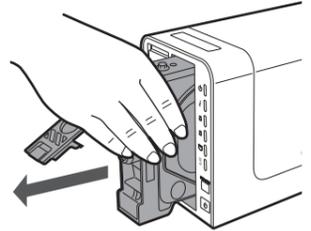


- 3 レバー部分を持ちながら、HDDユニットを半分ほど手前に引き出します。

・このとき、製品本体の上部を手で押さえながら引き出すと安定して引き出せます。



- 4 HDDユニット本体をしっかりと持ちながら取り出します。



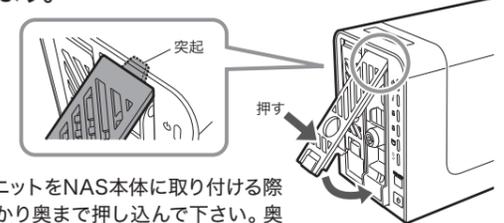
- ・レバーを持ったまま最後まで引き出そうとするとレバーが破損する恐れがあります。HDDユニット本体をお持ちください。
- ・HDDユニットは重量がありますので、HDDベイから引き出したときに、落下させて衝撃を与えないようにしっかりとってください。

#### HDDユニットの装着方法

- 1 別売のHDDユニットを用意します。

- 2 レバーを引き上げた状態で、HDDユニットをHDDベイに差し込みます。

- 3 レバー先端の突起がHDDベイに隠れるところまで押し込んだら、レバーの下方を押しながらHDDユニットをセットします。



- ・HDDユニットをNAS本体に取り付ける際は、しっかりと奥まで押し込んで下さい。奥まで押し込まれていないと、HDDが正しく認識されない場合があります。カチッと音がしてレバーがロックされた後、必ずNAS本体を押さえて、HDDユニットを後方へ強く押し込んで下さい。

- 4 付属のキーを使って、セキュリティロックを閉めます。



#### RAIDシステムの復旧

本製品はRAID1のみオートリビルドに対応しています。HDDユニットの交換が完了すると、自動的にRAIDシステムの復旧作業を開始します。

RAIDシステムの復旧にかかる時間の目安は以下のとおりです。

NSR-MS2T2BLBの場合  
約3時間 (HDDにWestern Digital WD10EFRX使用時)

NSR-MS4T2BLBの場合  
約5.5時間 (HDDにWestern Digital WD20EFRX使用時)

NSR-MS6T2BLBの場合  
約8.5時間 (HDDにWestern Digital WD30EFRX使用時)

NSR-MS8T2BLBの場合  
約11時間 (HDDにWestern Digital WD40EFRX使用時)

## 6 レプリケーションの設定

※共有フォルダーやユーザー/グループのアクセス制限等の設定はあらかじめ完了させておいてください。

レプリケーションは以下の手順で設定します。

- ①レプリケーション先(以下、ターゲットと呼びます)のNASをRsyncターゲットに設定します。
- ②レプリケーション元(以下、ソースと呼びます)のNASでバックアップの設定を行います。

### ①ターゲットの設定

- 1 ターゲットNASの管理画面で、バックアップメニューの「バックアップ先の設定」を選択します。



- 2 Rsyncターゲットサーバーを有効にします。



- 3 ユーザー名とパスワードを設定します。ソースNASで、バックアップ先として設定する際に必要になります。

- 4 Rsyncの通信でSSHを使用する場合、暗号化設定を「有効」にしてください。

- 5 「許可済みのIP」を設定すると、記載されたIPのソースNASからのみ設定できます。

- 6 SSH通信で公開鍵を指定する場合は、パブリックキー/プライベートキーをアップロードしてください。

- 7 適用を選択します。

※ターゲットNASにユーザーがアクセスできないように設定するには、ネットワークサービスメニューで、「AFP」、「NFS」、「SMB」、「FTP」を無効に設定してください。各サービスの動作状況はシステム管理メニューの「ステータス」をクリックして確認してください。

サービス状態	
AFPステータス:	作動中
NFSステータス:	ストップ
SMBステータス:	作動中
FTPステータス:	ストップ
UPnPステータス:	作動中
SNMPステータス:	ストップ
Rsyncステータス:	作動中

## ②ソースとなるNASでリモートバックアップの設定をします

- 1 ソースとなるNASの管理画面で、バックアップメニューの「バックアップタスク」を選択します。



- 2 追加を選択します。



- 3 データバックアップウィザードが表示されたら、「リモートバックアップ」をクリックします。



- 4 完全バックアップをクリックします。



- 5 リモートターゲットにターゲットNASのIPアドレスを入力します。ターゲットで暗号化を設定した場合は、SSHによる暗号化をオンにします。ターゲットの設定の手順3で入力したアカウントとパスワードを設定します。設定が完了したら、「接続テスト」をクリックします。正常に接続が構築されると、「接続テスト合格!」と表示されるので、「次へ」をクリックします。



- 6 パラメータの入力をします。レプリケーションを行うには、以下のパラメータ設定を行ってください。
  - ・バックアップタイプ:リアルタイム
  - ・同期タイプ:同期



- 7 完了をクリックすると、次のように表示されます。



- 8 設定の保存

ソース機に障害が発生した場合、ターゲット機にシステム構成を移行するための設定を保存します。

- ①システム管理メニューの「設定保存・復元」を参照し、システム設定を保存します。
- ②ファイル共有/権限メニューの「ユーザー/グループのバックアップと復元」を参照し、ユーザー/グループの設定を保存します。
- ③共有フォルダーにアクセス制限を設定している場合は、「ACLの保存と復元」を参照し、ACL設定も保存します。

→ ソース機の共有フォルダーやユーザー/グループのアクセス制限等の設定はあらかじめ完了させておく必要があります。

以上で、レプリケーションの設定は完了です。

## 7 障害発生時

ソースNASに障害が発生した場合、以下の手順で対処を行います。

- ①ソースNASをLANケーブルを抜くなどして、ネットワークから切り離してください。
- ②ターゲットNASにソースNASの設定を復元します。

- 1 IntelligentNASを起動し、ターゲットNASの管理画面を開きます。
- 2 システム管理メニューの「設定保存・復元」を参照し、システム設定を復元します。
- 3 IntelligentNASで再スキャンを行い、管理画面を開きます。
- 4 ファイル共有/権限メニューの「ユーザー/グループのバックアップと復元」を参照しユーザーとグループの設定を復元します。
- 5 フォルダにアクセスコントロールを設定していた場合、バックアップメニューの「アクセス制限設定の保存/復元」を参照し、ACLを復元します。

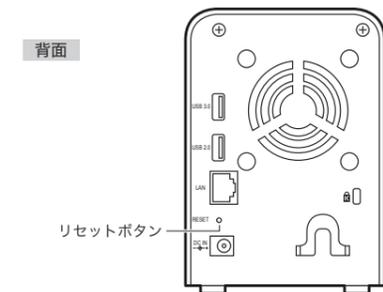
以上で、ターゲットNASをソースNASに入れ替える作業は完了です。障害が発生したNASを復旧させた後、新たにレプリケーションを設定してください。

## 8 レプリケーションの再設定

- 1 障害が発生したNASをHDDの交換や、修理などで正常な状態に戻してください。
- 2 復旧させたNASをターゲットとして、本手順の項目6の手順でレプリケーションの設定を行ってください。

## 9 リセット

リセットを実行すると、下記内容で実行されます。



リセットボタン 本製品をリセット(工場出荷時の状態)します。このボタンを5秒以上押し続けることで、管理画面で行なわれた設定がリセットされます。保存されているデータは消去されることはありません。